

## 在留外国人介護職従事者の出身国と居住分布の特徴

佐藤 将<sup>1</sup>, 門脇 邦夫<sup>2</sup>, 佐藤 恵子<sup>1</sup>  
satos@aa.tufts.ac.jp

- 1 動機:** これまで外国籍の人が介護福祉士の資格を取得できたとしても、介護業務に就くことが難しかった。しかし①労働人材の不足を解消する目的として外国人労働者の受け入れをより強化する必要性が生じており、そのための外国人の受け入れ態勢の強化を行う必要があった点、また②介護人材の確保が急務となっている社会的な要請もあり、新たな在留資格として2017年より「介護」が創設された。この在留資格は他の資格とは異なり、特定の職業の外国人従事者を抽出する事が可能である。この特徴をいかして本研究では在留外国人介護職従事者の出身国と居住分布の空間構造を明らかにする。
- 2 方法:** 本研究では2021年12月末時点における在留外国人統計に掲載の「介護」の在留外国人数をを用いて分析する。まず日本国内に居住する人がどの国・地域出身が多いのかを国籍別の分布数のコロプレスマップを作成して確認する。次に日本国内における「介護」の在留資格者の居住動向を市区町村別に分析する。ここではAnselin(2005)のLocal MoranのMoran's Iを用いて、集積傾向を把握する。これらの分析を通して近年増加している外国人介護従事者の空間の視点からみた特徴を明らかにする。なお市区町村別かつ在留資格別の統計データでは在留外国人数が10人以下の自治体は非掲載のため、これに該当する自治体は除外して分析を行った。

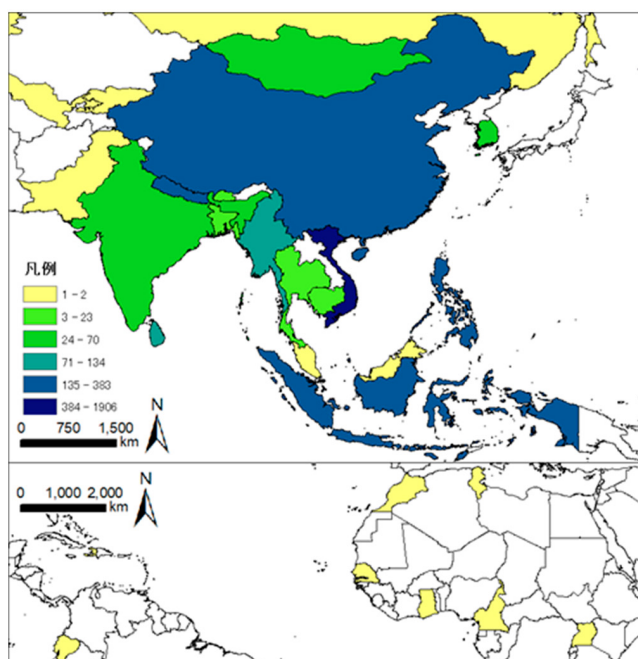


図1: 国籍別の「介護」の在留資格者数

- 3 結果:** まず図1で2021年時点での国籍別の分布状況を確認すると、東南アジアを中心に多いことがわかる。「介護」の資格取得者は「留学」からの資格変更者が多いが(福嶋, 2020)、ベトナム、インドネシア、フィリピンではEPA介護福祉士候補者から「介護」に変更するルートもあり、その影響もあり在留資格者数が多く見られた。次に図2で日本国内における「介護」のHHが見られる集積地域を概観し、首都圏および関西圏に多いことを示した。首都圏では都心部から千葉県北西部にかけて、関西においては大阪府北部および神戸市とその周辺の兵庫県域に集積傾向が見られた。この結果を踏まえて、今後は日本国内における介護施設の分布状況を踏まえた外国人介護従事者の分布傾向との差の検証や市区町村別の分析でも国籍別との組み合わせでの検証を進めていく。

#### 4 使用したデータ:

・「在留外国人統計(2021年)」

- 5 謝辞:** 本研究は東洋大学現代社会総合研究所SDGsプロジェクトの研究助成を受けた。ここに記して感謝の意を表す。

#### 6 参考文献:

福嶋美佐子(2020)日本における外国人介護人材受入政策—特定技能「介護」の新設は社会にどのような影響を与えるのか—。「東京家政学院大学紀要」, 60, 31-47.

Anselin, L. (2005) Local Indicator of Spatial Association-LISA, 「Geographical Analysis」, 27, 93-115.

#### 7 関連文献:

佟亜齐娜(2020)介護職種に着目した日本の国際的労働力に関する研究。「都市地理学」15, 163-174.

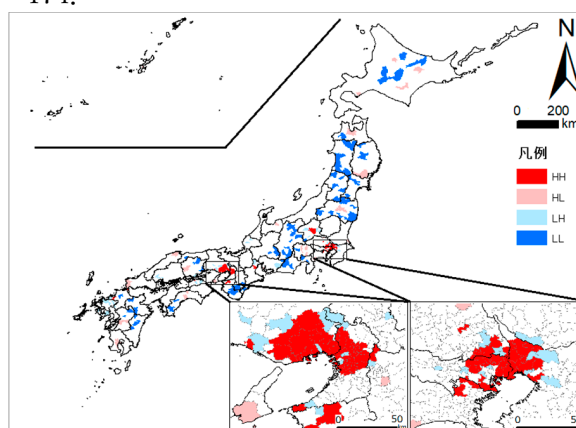


図2: 「介護」の在留資格者数のLocal Moran's I